

ワンステップ 研修だより

R8.7.12

サンクスシェア

田中さとる

【事例検討】

そもそも事例検討とはどのようなものなのでしょうか？

型	主な目的	中心となる問い	向いている場面
問題解決型	困りごとの解決	「どうすればよいか？」	行動上の問題、支援の行き詰まり
事例理解型	本人理解を深める	「なぜそうなっているのか？」	発達障がい、強度行動障がい、精神障がい等
本人中心型	本人の希望から支援を考える	「本人はどう暮らしたいのか？」	計画相談、地域移行、生活支援
振り返り型	支援関係を見直す	「私たちの関わりはどうだったか？」	支援者の迷い、関係悪化、チーム内のズレ
多職種連携型	支援チームを整える	「誰が何を担うか？」	複数機関が関与するケース

どの型も事例検討としての軽重があるわけではありません。

ただ、目的はさまざまで、これによって得られる効果も違います。

そのため、個人やチームの資質向上をめざし、目的を明確にした事例検討を行うことが重要だと考えます。私も過去学校勤務時代も含めて数限りない事例検討を経験してきました。私たち支援者は、事例検討に対してかなり大きなニーズをもっています。また、期待も持っています。それは、私たち支援者にとって困難な支援について困り度が大きいし、他者の力も借りて解決することに大きな期待を持っているからです。

ただ、この事例検討は、単に困っている事例の解決が図られればよいのでしょうか？

忘れてはならないのは、事例検討には、検討に参加する参加者の貴重な時間を割いていただいていることです。そうである限り、私たちが心得ておかなければならないのは、時間を有効に使うこと（適切な時間配分で進行すること）、参加する参加者にとって有用な気づきが共有されることだと思います。もし、そこへの配慮が高くないのであれば、それは事例検討ではなく、単に特定の支援者への相談・質問でよいことになります。これをあえて参加者の時間を割いてもらって事例検討をするのであれば、事例検討の学びの場づくりについて、目的の明確化や進行の時間配分、協議の方法などを適切に管理しながら、効率的になおかつ検討で支援の視点を明らかにし、チーム全員の蓄積になるよう仕掛けをつくる必要があります。

そう考えると、私たち事例検討の進行役として、不十分なところも多々あったことを真摯に反省します。申し訳ありませんでした。

今後、事例検討のあり方、事前の準備、進行の進め方などについて研修を提供するわれわれとしても腕を挙げなければならないと思います。同時に、事例検討に参加する参加者の参加の仕方にも工夫を向ける必要がありますし、もう一つ言うのであれば、今回の参加のみなさんが、各部署で事例検討を展開する際の進行スキルの向上にも寄与できるよう私たちサンクスシェアもブラッシュアップします！

さて、みなさんにとって今回の事例検討での気づき、明らかになったことがありましたでしょうか？
A I での記録ではありますが、協議の内容を整理してまとめてみました。

① 事例検討のテーマ

生活介護において、本人の好きな活動やこだわりを再定義し、**本人の主体性（選ぶ力）を育む**ことで、活動意欲の向上と自立的な過ごし方の拡大を目指すことが共通のテーマです。

② テーマに合わせた視点、検討点

* **「遊び」から「仕事」への意味付けの変化:** 単なる遊びやこだわり（プラレール、棚の点検など）を「役割のある仕事」として捉え直すことで、達成感や施設に来る動機付けに繋げる。

* **職員主体から本人主体のスケジュールへ:** 提示された予定をこなす（命令として受け取られる）のではなく、本人が「何をするか」を選択できる仕組みを構築する。

* **不適切行動の除去より「できること」の強化:** ABC 分析を用い、成功した場面を記録・蓄積することで、強みを活かした支援に繋げる。

* **特定職員への依存と「一人で過ごす時間」の再定義:** 常に職員を求める状況に対し、無理に一人にさせるのではなく、「本人が一人でできることの量・種類」を増やす視点を持つ。

③ 具体的なアイディア出し

* **得意・興味を活かした「役割」:** 数を数えるのが得意なら在庫チェック、棚を開けるのが好きなら点検作業としてスケジュール化する。

* **活動の具体化:** N ゲージ・ジオラマ制作、ダンボール工作、塗り絵（展示して称賛を得る機会を作る）など、本人の好みに合致した創作活動。

* **選択式スケジュールの導入:** 30 分単位で、タブレット・塗り絵・職員との会話など、3 択程度の選択肢から本人が選べるようにする。

* **コミュニケーションの構造化:** 特定の職員と話せる時間を「券」の使用や「職員会議の時間」などで枠組み化し、見通しを持てるようにする。

* **家庭との連携強化:** 活動内容の写真を母親と共有し、家庭でも褒めてもらえる環境を作る。また、活動実績に応じた擬似工賃やご褒美制度の検討。

改めて私たち進行側の進行力不足が否めませんが、具体的なアイディア出しの部分が消化不良でした。このアイディア出しを十分に行うことをやろうとすると、本人の十分なアセスメント情報が必要です。詳しく言うと、今回の検討テーマに関わる部分の詳細なアセスメント情報（テーマに関してできていることとできていないこと、行動に関する背景要因とされる状況情報、テーマに関する本人、家族の思い、願い、意識の情報など）が必要だと言えます。

これは私の事例検討に携わる経験から思うに、①テーマに関する詳細なアセスメント情報の収集と②問題解決にかかわるアイディア出しは同日にすることは難しいです。①でアセスメントの視点を明確にした上で、一定期間を利用して情報収集に取り組み、その収集した情報をもとにアイディア出しをする、この2段階事例検討も、今後一考する余地がありそうです。